

# 四 半 期 報 告 書

(第133期第1四半期)

住 江 織 物 株 式 会 社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

住 江 織 物 株 式 会 社

# 目 次

頁

【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
3 【経営上の重要な契約等】 .....	6
第3 【提出会社の状況】 .....	7
1 【株式等の状況】 .....	7
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	18

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年10月15日

【四半期会計期間】 第133期第1四半期（自 2021年6月1日 至 2021年8月31日）

【会社名】 住江織物株式会社

【英訳名】 Suminoe Textile Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 永田鉄平

【本店の所在の場所】 大阪市中央区南船場三丁目11番20号

【電話番号】 06(6251)7950番

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 薄木宏明

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田二丁目30番4号

【電話番号】 03(5434)2860番

【事務連絡者氏名】 東日本管理部長 三宅 強

【縦覧に供する場所】 住江織物株式会社 東京支店  
(東京都品川区西五反田二丁目30番4号)  
  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第132期 第1四半期 連結累計期間	第133期 第1四半期 連結累計期間	第132期
会計期間	自 2020年6月1日 至 2020年8月31日	自 2021年6月1日 至 2021年8月31日	自 2020年6月1日 至 2021年5月31日
売上高 (百万円)	15,555	18,738	79,702
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	△825	△300	1,211
親会社株主に帰属する 当期純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失 (△) (百万円)	△1,143	△548	409
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	△943	△573	866
純資産額 (百万円)	31,532	32,209	32,956
総資産額 (百万円)	83,319	81,441	83,669
1株当たり当期純利益又は 四半期純損失 (△) (円)	△181.34	△86.81	64.84
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	32.3	33.5	33.5

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 第132期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 第132期第1四半期連結累計期間および第133期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第1四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態および経営成績の状況

##### ① 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、6月に3回目の緊急事態宣言が多くの都道府県で解除となり、景気は緩やかに回復に向かうと見られたものの、新型コロナウイルスの変異株の感染症拡大により、依然として先行きの不透明な状況が続きました。世界経済においては、米国では、新型コロナウイルス感染症の再拡大などによりペースが鈍化しつつありますが、引き続き経済活動の再開に伴う景気回復の動きが見られました。

当社グループ事業に関連のあるインテリア業界において、国内の新設住宅着工戸数は前年同期比8.2%増、非住宅分野では着工床面積が前年同期比4.3%増となりました。また、自動車業界において、国内市場の生産台数は前年同期比6.6%増となりました。海外市場でも生産・販売が増加し、前年同期を上回りました。

当社グループは、2022年5月期を初年度とする中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」を新たに策定いたしました。これまで当社グループが取り組んできたESG経営のもと、社会のニーズに応える商材の拡販とグローバル経営を推進し、グループ社員全員の力を合わせて、この中長期経営目標に取り組んでまいります。

インテリア事業では、SUMINOEブランドの認知向上に取り組みつつ、抗菌・抗ウイルス加工技術「CLEANSE/クレンゼ」を施した製品や、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS（エコス）」といった、健康に配慮し、環境にやさしい製品の拡販に努めております。空間全体の設計・デザインを行うスペース デザイン ビジネスにおいては、得意とする店舗の内装からオフィスやホテルまで、ビジネスの拡大を目指してまいります。

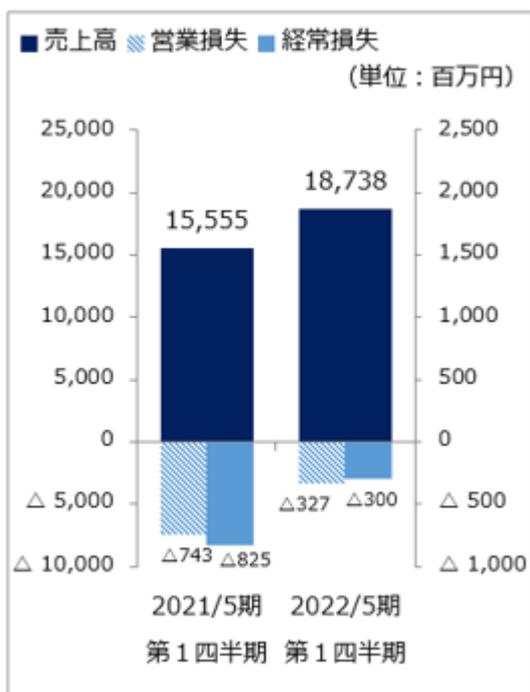
自動車・車両内装事業では、自動車関連は、合成皮革などの非繊維商材の技術開発と受注拡大に取り組むとともに、原材料調達およびグローバル車種の生産地の最適化による原価低減を進めております。車両関連は、鉄道・バス向けの高機能ファブリック素材の製造販売や、シートクッション材・安全対策商材の拡販に努めております。自動車関連、車両関連ともに、インテリア事業で培ってきた抗菌・抗ウイルスなどの加工技術を活かした製品および環境商材の開発に取り組んでおります。

機能資材事業では、繊維系電気暖房商材の生産拠点である中国およびベトナムの工場再編を進め、地域リスクを分散し、最適な供給体制を構築しております。また、開発部門との連携を強化することで、各事業・製品の価値向上と開発営業力の強化に取り組み、既存事業での確実な受注と市場ニーズに応じた新たな機能加工品等の製品開発・販売に注力してまいります。

グループ全体では、経営管理体制の高度化を実現すべく、基幹システムの再構築や連結業績管理の精緻化に取り組んでおり、事業の成長に向けた土台づくりを着実に進めております。また、当社グループのマザー工場である奈良事業所の再編を進めております。生産能率の向上やサプライチェーンの効率化、環境負荷低減を実現するとともに、研究開発棟を新設し、各事業部間の連携強化によるシナジー効果を発揮できる場を目指します。

現在、事業横断的なプロジェクトを立ち上げております。インテリア事業の持つデザイン力、自動車・車両内装事業のファブリック素材への加工技術、機能資材事業の消臭・抗菌・抗ウイルスといった高機能技術など、それぞれの事業分野が持つ強みを結集し、これからの空間に求められる次世代内装の開発に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間における連結業績は、以下のとおりとなりました。

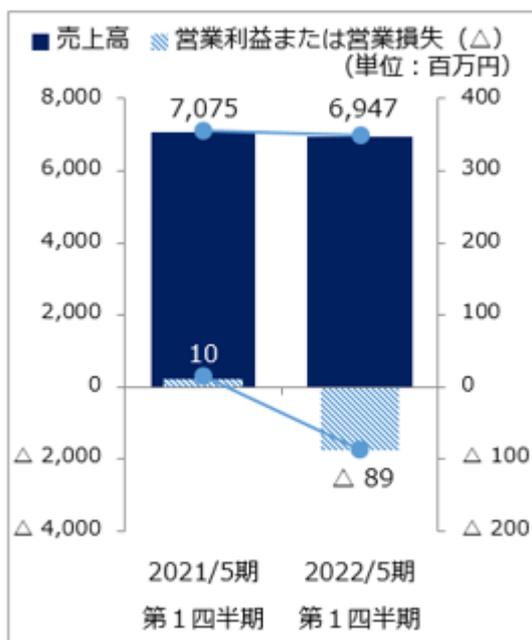


売上高は、日系自動車メーカーのグローバル生産台数の増加を受けて自動車関連売上が伸びたこと等から、前年同期比20.5%増の187億38百万円、利益面では、営業損失3億27百万円（前年同期 営業損失7億43百万円）、経常損失3億円（同 経常損失8億25百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失5億48百万円（同 親会社株主に帰属する四半期純損失11億43百万円）となりました。

セグメントの業績については、次のとおりであります。

セグメント	売上高		セグメント利益または損失 (△)	
	金額 (百万円)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
インテリア事業	6,947	△1.8	△89	—
自動車・車両内装事業	11,068	+41.9	250	—
機能資材事業	658	+19.4	12	—
その他	63	△50.0	△0	—
小計	18,738	+20.5	173	—
調整額	—	—	△501	—
合計	18,738	+20.5	△327	—

(インテリア事業)



壁装関連が価格改定の効果で堅調に推移し、スペースデザイン ビジネスも売上増加に寄与したものの、業務用および家庭用カーペット等が前年同期の反動から低迷し、売上高は前年同期比1.8%減の69億47百万円、利益面では営業損失89百万円（前年同期 営業利益10百万円）となりました。

業務用カーペットは、大型案件の減少によりロールカーペットが前年同期に届かず、また、タイルカーペットにおいても販売が低迷し、業務用カーペット全体の売上は前年同期比12.9%減となりました。

家庭用カーペットの売上は、前年同期は外出自粛によりウェブ向け販売が伸長し、ホームセンターなどの店舗販売も好調となっていたものの、当第1四半期は需要が一巡したことから、同15.2%減となりました。

カーテンのうち、一般家庭向け「mode S Vol. 9」および医療・福祉・教育施設向け「Face」は前年同期並みに推移したものの、その他一般家庭向けカーテンが伸び悩んだことから、カーテン全体の売上は同11.8%減となりました。

スペース デザイン ビジネスでは、2020年9月より連結対象となった株式会社シーピーオーの売上が寄与しました。当期より通年寄与となります。

壁装関連では、襖紙が伸び悩んだものの、一部商材の価格改定の効果があり、売上は同2.9%増となりました。

(自動車・車両内装事業)

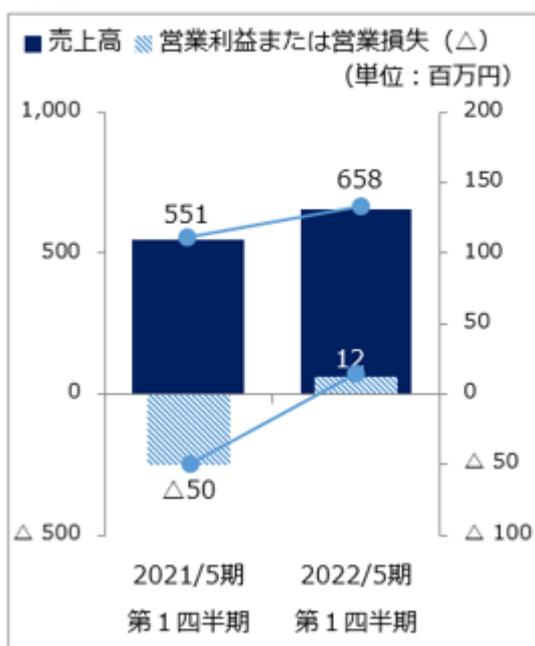


鉄道・バス内装材の需要減少の影響があったものの、日系自動車メーカーのグローバル生産台数の増加を受け、売上高は前年同期比41.9%増の110億68百万円、利益面では営業利益2億50百万円（前年同期 営業損失2億71百万円）となりました。

自動車関連では、前年同期は新型コロナウイルス感染症拡大により各地で生産が大きく縮小しましたが、当第1四半期では回復が見られました。日系自動車メーカーの生産台数が国内外ともに前年同期対比で増加したことから、国内の売上は前年同期比16.8%増となりました。海外では、中国は自動車の増産傾向が続き、北米やインドネシアにおいては自動車販売が回復した影響などから好調に売上を伸ばし、海外の売上は同90.9%増となりました。

車両関連では、鉄道・バス向けとともに、長引くコロナ禍で、外出自粛やテレワークの推進による公共交通機関の利用者数減少の影響などを受けて内装材需要が戻らず、車両関連全体での売上は前年同期を下回りました。

(機能資材事業)



主力製品であるホットカーペットは、2020年5月期の暖冬の影響が解消したことから受注が伸長し、浴室床材の受注も好調となりました。また、消臭・フィルター関連では、「トリプルフレッシュ デオ」加工を施したフィルターが新規採用されたこと等から、売上高は前年同期比19.4%増の6億58百万円、利益面では営業利益12百万円（前年同期 営業損失50百万円）となりました。

## ② 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、商品及び製品が増加したものの、現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末に比べ22億27百万円減少し、814億41百万円となりました。

負債につきましては、支払手形及び買掛金の減少等により、前連結会計年度末に比べ14億80百万円減少し、492億32百万円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金の減少等により、前連結会計年度末に比べ7億47百万円減少し、322億9百万円となりました。

## (2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (3) 優先的に対処すべき事業上および財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上および財務上の課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、2億52百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数 (株) (2021年8月31日)	提出日現在 発行数 (株) (2021年10月15日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,682,162	7,682,162	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	7,682,162	7,682,162	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年6月1日～ 2021年8月31日	—	7,682	—	9,554	—	2,388

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2021年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしておりません。

① 【発行済株式】

2021年5月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 1,363,800	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 6,290,400	62,904	—
単元未満株式	普通株式 27,962	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	7,682,162	—	—
総株主の議決権	—	62,904	—

② 【自己株式等】

2021年5月31日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合（%）
（自己保有株式） 住江織物株式会社	大阪市中央区南船場 三丁目11番20号	1,363,800	—	1,363,800	17.8
計	—	1,363,800	—	1,363,800	17.8

（注）当第1四半期会計期間末（2021年8月31日）の自己株式は、1,363,878株（発行済株式総数に対する所有株式数の割合17.8%）となっております。

2 【役員状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2021年6月1日から2021年8月31日まで）および第1四半期連結累計期間（2021年6月1日から2021年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,936	8,142
受取手形及び売掛金	14,147	13,183
電子記録債権	5,846	5,776
商品及び製品	8,533	8,914
仕掛品	1,610	1,922
原材料及び貯蔵品	2,716	3,047
その他	2,790	2,989
貸倒引当金	△24	△24
流動資産合計	46,557	43,951
固定資産		
有形固定資産		
土地	17,606	17,602
その他（純額）	10,422	10,857
有形固定資産合計	28,028	28,460
無形固定資産		
1,547	1,547	1,498
投資その他の資産		
投資有価証券	4,916	4,792
繰延税金資産	1,542	1,600
その他	1,238	1,299
貸倒引当金	△162	△161
投資その他の資産合計	7,534	7,530
固定資産合計	37,111	37,489
資産合計	83,669	81,441

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,997	11,230
電子記録債務	4,243	3,985
短期借入金	9,834	9,794
未払法人税等	588	252
解体費用引当金	297	297
その他	4,894	5,182
流動負債合計	31,856	30,742
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	7,855	7,316
繰延税金負債	313	313
役員退職慰労引当金	112	96
退職給付に係る負債	4,148	4,159
その他	5,426	5,603
固定負債合計	18,856	18,489
負債合計	50,712	49,232
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,640	2,640
利益剰余金	10,672	9,997
自己株式	△3,988	△3,988
株主資本合計	18,878	18,203
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	893	797
繰延ヘッジ損益	0	0
土地再評価差額金	7,797	7,797
為替換算調整勘定	608	599
退職給付に係る調整累計額	△134	△126
その他の包括利益累計額合計	9,166	9,066
非支配株主持分	4,911	4,938
純資産合計	32,956	32,209
負債純資産合計	83,669	81,441

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年6月1日 至2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年6月1日 至2021年8月31日)
売上高	15,555	18,738
売上原価	12,367	14,891
売上総利益	3,187	3,847
販売費及び一般管理費	3,931	4,175
営業損失(△)	△743	△327
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	36	36
持分法による投資利益	—	3
不動産賃貸料	66	65
保険配当金	29	21
その他	71	65
営業外収益合計	209	198
営業外費用		
支払利息	59	51
持分法による投資損失	164	—
為替差損	47	98
不動産賃貸費用	8	8
その他	9	12
営業外費用合計	290	171
経常損失(△)	△825	△300
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	543	—
特別利益合計	543	0
特別損失		
固定資産除売却損	1	24
投資有価証券評価損	682	—
特別損失合計	684	24
税金等調整前四半期純損失(△)	△966	△324
法人税、住民税及び事業税	139	158
法人税等調整額	29	△22
法人税等合計	169	135
四半期純損失(△)	△1,135	△460
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	88
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,143	△548

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)
四半期純損失(△)	△1,135	△460
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	160	△96
繰延ヘッジ損益	△5	△0
為替換算調整勘定	26	△23
退職給付に係る調整額	9	7
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△0
その他の包括利益合計	191	△113
四半期包括利益	△943	△573
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△991	△647
非支配株主に係る四半期包括利益	47	74

## 【注記事項】

### (会計方針の変更)

#### (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる主な変更点は次のとおりであります。

一部の取引について、従来は、総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。また、有償支給取引について、従来は、有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。なお、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の「売上高」および「売上原価」はそれぞれ48百万円減少し、「原材料及び貯蔵品」および流動負債の「その他」がそれぞれ350百万円増加しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

#### (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

### (追加情報)

#### (新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定については、前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した内容から重要な変更はありません。

### (四半期連結貸借対照表関係)

#### 1 保証債務

下記の関係会社の借入金に対する保証債務

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
住商エアバッグ・システムズ(株)	2,522百万円	2,511百万円

(注) 住商エアバッグ・システムズ(株)への保証債務は、当社負担額を記載しております。

### (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)
減価償却費	484百万円	470百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年8月28日 定時株主総会	普通株式	94	15.00	2020年5月31日	2020年8月31日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年8月27日 定時株主総会	普通株式	126	20.00	2021年5月31日	2021年8月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年6月1日至2020年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	7,075	7,801	551	15,428	126	15,555	—	15,555
セグメント間の内部 売上高または振替高	136	0	0	137	40	178	△178	—
計	7,212	7,802	551	15,566	166	15,733	△178	15,555
セグメント利益 または損失(△)	10	△271	△50	△311	33	△278	△465	△743

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。  
2 セグメント利益または損失(△)の調整額△465百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△470百万円が含まれております。  
全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門および研究開発部門に係る費用等であります。  
3 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報  
重要性がないため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2021年6月1日至2021年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,947	11,068	658	18,675	63	18,738	—	18,738
セグメント間の内部 売上高または振替高	171	1	0	173	36	209	△209	—
計	7,119	11,070	658	18,848	99	18,948	△209	18,738
セグメント利益 または損失(△)	△89	250	12	174	△0	173	△501	△327

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。  
2 セグメント利益または損失(△)の調整額△501百万円には、セグメント間取引消去13百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△515百万円が含まれております。  
全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門および研究開発部門に係る費用等であります。  
3 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報  
重要性がないため、記載を省略しております。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益または損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて当第1四半期連結累計期間の「インテリア事業」の売上高は41百万円、「機能資材事業」の売上高は7百万円それぞれ減少しております。なお、「インテリア事業」のセグメント損失(△)および「機能資材事業」のセグメント利益に与える影響はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第1四半期連結累計期間（自 2021年6月1日 至 2021年8月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	その他	
一時点で移転される財	6,947	11,068	658	63	18,738
一定の期間にわたり移転 される財	—	—	—	—	—
顧客との契約から生じる 収益	6,947	11,068	658	63	18,738
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,947	11,068	658	63	18,738

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)
1株当たり四半期純損失(△)	△181円34銭	△86円81銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△) (百万円)	△1,143	△548
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)(百万円)	△1,143	△548
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,308	6,318

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年10月15日

住江織物株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 谷 尋 史

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柴 崎 美 帆

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている住江織物株式会社の2021年6月1日から2022年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2021年6月1日から2021年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2021年6月1日から2021年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、住江織物株式会社及び連結子会社の2021年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2021年10月15日

**【会社名】** 住江織物株式会社

**【英訳名】** Suminoe Textile Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 永 田 鉄 平

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 大阪府中央区南船場三丁目11番20号

**【縦覧に供する場所】** 住江織物株式会社 東京支店  
(東京都品川区西五反田二丁目30番4号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長永田鉄平は、当社の第133期第1四半期（自2021年6月1日 至2021年8月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。